

策定プロセス訪問調査事例

秋田県象潟町

市町村母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 (秋田県象潟町)

記載担当者名 (岩手県保健福祉部保健衛生課 小池創一)

	市町村		保健所の関与
	市町村行政内部の作業	住民参加	
I 事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口13,800名、山形県との県境の町 少子化にともなって母親、子供同士の交流が少ないという問題点 平成7年より町内の病院の産科病床が廃止、町内に産科病床は0となったため、隣接する本荘市や、隣県の山形県酒田市を利用する 小児科は2、歯科は4 小児療育センター等の専門機関までは自動車で約1時間半 福祉課に3係、婦長制、保健係が担当保健婦が4名 保健事業打合せ(三役・医師会・議会関係者・学校関係者)が町全体の保健施策を年一度審議し、母子保健委員会が2月ごろの町予算作成前に母子保健事業検討を行う 平成7年度から国保の電算化関連事業のなかで、母子保健事業全般についての検討もあわせて開始されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康生活推進員(保健推進員等)として162名組織化 住民からの声、は比較的ににくい 	<p>1市10町を所管、管内人口12万5千人</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康指導課、環境指導課の2課制、健康指導課は総務担当、企画担当、健康増進担当、疾病予防担当の4担当制 健康増進担当が主担当、企画担当が支援
II 計画策定の準備	<ul style="list-style-type: none"> 保健婦長が保健係内の保健婦を召集し、計画策定打ち合わせ 母子保健委員会委員長で秋田小児保健部会副会長の医師を母子保健計画策定委員会の委員長へ 保健婦長が教育委員会社会教育課長へ計画策定の協力を求める 保健婦長の発案、母子保健委員会委員長の紹介で埼玉県戸田市に、国保係長、保健婦長、保健係長、母子保健担当者へ視察。アンケート、データ分析、計画の文章化について助言を得た。 <p>【課題・問題点・苦労したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> エンゼルプラン策定の時期にあたり、母子保健計画の位置づけを明確化するのに苦労した。 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の医師の参加は専門家としての期待もあったが、女性の立場、母親としての立場を期待した。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成8年5月「市町村における母子保健計画にかかる基本的事項」が県保健衛生課から通知 平成8年8月 管内主管課長会議で周知 母子保健研修事務管内市町村研修(係長・担当者対象)を実施、進捗状況の把握 計画の具体的な内容等については各市町村の独自性を重視する意味で指示は出していない。
◆ その他、計画策定のための環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 保健婦長が課内保健婦の業務内容調整 時間外対応は保健婦、係長、栄養士 ワープロ原稿作成を臨時職員に依頼 計画にかかる予算措置なし 		
III 地域の実態、住民ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> アンケート内容は保健婦長中心に課内で検討 保健センター事業参加者への個別の要望調査アンケート調査 エンゼルプラン関連アンケート結果を利用 当初事業参加者を対象に記載式アンケートを実施したが回収率20%と低いため、健康生活推進員を通じて1・4歳児の親へのアンケート調査を新たに企画 保健所から管内データの送付を受けグラフ化することで問題点がより明確に 	<ul style="list-style-type: none"> 健康生活推進員がアンケートの配布、回収 健康生活推進員から特別な意見・要望等はでなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 人口動態、乳幼児検診実施状況等の資料を市町村ごとにまとめて提供 計画策定に必要な資料は既に市町村単位に整備されているとの認識
IV 計画(施策)化	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健計画策定委員会で検討・協議(3回) 第1回 基本的考え方・現状と課題 第2回 アンケート結果の報告 第3回 最終案の審議 原案を保健センターで作成し、意見を求める。いくつかの事業は必要性の説得ができなかった。 委員からは、統計についてのコメントが多い。新規事業についての提言などは特になかったが、眼科機器導入などの積極的な養成があった。 		<ul style="list-style-type: none"> 策定委員会には参加せず 母子保健担当者が、町児童育成計画策定委員会に3回、助言者として参加

	<ul style="list-style-type: none"> ・策定委員会委員長が仙台市の事例や、県全体の情報について、詳細な資料提供を保健センターに行い、議論のための基礎データを提供してくれた。 ・中学生のこころの健康事業に対し消極的な態度をとっていた教育委員会に会議で強く対応を求めるなど医師会のバックアップが得られた。 ・目標値については財政担当との直接的な交渉の場を持たず、予算の裏付けが得られていないが、目指すべき目標として作成 <p>【課題・問題点・苦労したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健計画の住民や議会へのPRが不足していた。 ・乳幼児のこころの発達教室の継続が、学校側と調整がつかず計画の変更が行われるなど、教育分野との連携に課題 		
<p>V 計画の具体化</p>	<p>平成9年 遊びの教室、遊びの相談室、中学生への相談 平成10年 いのちの教室（小学6年対象）が新規事業として認められる。</p> <p>エンゼルプランのなかで母子保健計画が実施されるとの位置づけであり、エンゼルプランの進行管理（回数・方法未定）のなかで実施されることとなった。</p>	<p>・平成10年度より健康生活推進員に子供部会を設置</p>	<p>・母子保健計画推進地区研修会を開催（平成9年度 2回）事例紹介と自由討議</p>
<p>VI 全体を通じた事例のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ エンゼルプランの中に完全に含まれる形での母子保健計画 母子保健計画は当初独立したものとして策定されていたが、エンゼルプランの中に母子保健計画はすべて含まれるものとして策定されることとなった ○ 関連機関との連携 医師会の強いバックアップが得られた点、教育分野との連携の糸口がつかめた点が良かった。 ○ 担当者の満足度 <ul style="list-style-type: none"> ・自己採点で100点満点中60点 ・エンゼルプランに母子保健計画すべて含まれることになったことは、町内で保健の位置づけが低くなったかを感じる反面、より多くの人々を巻き込み、推進体制が強化された点は評価できる。 ・自分たちの仕事を残すものとしてすべての事業を含められたわけではないがまとめられた。 ・若い保健婦が計画策定を通じて非常に成長した。 ・残業が多く苦労したが、充実感も大きく、男性が仕事で家に帰りたい理由が良く分かったような気がした。 <p>【国・県への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健分野が福祉等に比較して弱体化しつつあり、体制の強化を望む <p>【調査担当コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンゼルプラン、障害者プランなどに挟まれ相対的に町の優先順位が低い中、医師会との連携を鍵に、エンゼルプランと一体のものとして計画策定を行った。 		

